

## 【今号の1枚】 人生の勝負時にも手の消毒は必要！



パレスチナの学生にとってタウジヒ高校卒業試験は学生生活の集大成。タウジヒ卒業試験の結果が進学する大学をはじめ今後の人生を大きく左右すると言っても過言ではありません。

6月24日からのタウジヒ卒業試験開始に間に合うように、JICAはパレスチナ教育庁と協力し、ガザの小中高校369校に新型コロナウイルス感染予防のためのマスク、消毒液、石鹸、体温計を供与しました。

ガザでは5月に武力衝突があったため、配布計画などに遅れが出ましたが、なんとかタウジヒ試験前に学校に届けることができました！右写真のとおり、ガザにあるBasheer Al Rayes女子高校でも、消毒液による手洗い、検温を済ませてから学校に入ります。

ガザの3万7千人のタウジヒ受験生は、新型コロナウイルス感染対策を万全にして試験に臨めたと思います。

(写真提供：JICAパレスチナ事務所)



## コンゴ民主共和国の首都でコロナ予防の自動手洗い装置を設置

人口1400万人の巨大都市キンシャサはコロナ流行の中心。感染予防のため、JICAは7月に自動手洗い装置12機を公共施設8か所に設置しました。

手を出すと液体石鹸、水、温風が出て、何も触らずに手洗いと乾燥ができます。体温を測定し、使用者数もカウントします(動画はこちらで見ることができます ⇒ <https://youtu.be/ppN41isVHko>)。ソーラーパネルで駆動し、1,000ℓのタンクを備え断水になっても手を洗えます。国家コロナ対策委員会の要請により、訪問者が多く感染拡大の場となる刑務所、移民局、裁判所、PCR検査センターなどの入口に設置されました。

2021年7月5日の引き渡し式には、対策委員会事務局長のムエンベ教授(エボラ研究の功績で2019年野口英世アフリカ賞受賞)と柴田JICA事務所長が参加しました。

2020年3月のコロナ流行開始後、JICAが支援する職業訓練校(INPP)が自動手洗い装置を開発し、NHKでも報道されました。今回の装置は、JICA九州の研修員OGが率いる地元企業が受注、製造し、メンテナンスも行います。



刑務所での引き渡し式の風景。右はムエンベ教授。



自動手洗い装置。右端で体温を測り使用者をカウントし石鹸が出る。中央の蛇口で流し、左の乾燥機で乾かす。



荷物を下さず手を差し出すだけで手が洗える。



装置を造ったイザイ社長はロボット信号機製造でも有名

(JICAコンゴ民主共和国事務所)

モザンビークでも新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、首都マプト市内の低所得家庭では、マスクの購入ができず使い捨てマスクを繰り返し使用するなど、適切なコロナ感染対策が行われていません。学校においては密な環境による感染のリスクがあり、家庭への感染拡大も懸念されていました。

そのような状況を受けて、2021年7月、モザンビーク事務所のナショナルスタッフが協力隊派遣実績のあるマプト市内の2つの小学校を訪問し、「手洗い漫画」を使って各学校約50人の生徒に手洗いの重要性を伝えました。消毒薬、体温計等の衛生用品を配布して教室の消毒や検温のデモンストレーションを行ったほか、特に貧困な世帯から通っている生徒さんたちへのマスクの配布も行い、新型コロナウイルス感染拡大防止策を皆で再確認しました。

この訪問直後に新型コロナウイルス第3波の深刻化のために全国の学校が一斉休校となってしまいましたが、学校が再開後、これらのグッズを活用して校内の感染拡大予防、隊員の再受け入れ準備に取り組む予定です。また、休校措置のために配布が間に合わなかった8校にも、学校再開後に訪問して同様の活動を行います。



配布したポスター、グッズを手にする校長先生とモザンビーク事務所ナショナルスタッフ



生徒さんたちにポスターの内容を説明するナショナルスタッフ



手洗い運動ワークショップを終えて先生、生徒さんたち

(JICA モザンビーク事務所 伊藤 文)



5言語 × 4パターン



事務所スタッフが翻訳したポルトガル語版「正しい手洗い漫画」

[こちら \(ポルトガル語版\)](#) からダウンロードできます。  
(日本語版・英語版・ブランク版、[その他言語](#)もどうぞ！)

手洗い運動ロゴ

グッズやメールの署名欄にいかがですか？  
[ダウンロードはこちら](#)

## インターンシップ中の学生さんからの報告 自分から進んで手洗いを！日本の小学校の取り組み

前号までに、プロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」の成果を踏まえて、プロジェクトメンバーである門上綾さん(株式会社地球システム科学)に手洗いの重要性や留意点、習慣化に至るためのステップや日本で行われてきた様々な取り組みをご説明いただきました。今号では、JICA 人間開発部と地球環境部でインターンとして勤務する岩田純奈さん(慶應義塾大学)に、日本の小学校で実施された具体的な事例の紹介とともに、ご自身が参加する団体の活動経験をもとに手洗いの習慣化に向けたアプローチについて考察していただきました。

感染症の重要な予防法の1つが手洗いです。正しい手洗いを必要なタイミングで行い、継続することは簡単なことではありません。今回は、手洗いの習慣化に取り組む日本の小学校の実際の例<sup>1</sup>をご紹介します。

舞台は、ある日本の小学校の3年生のクラスです。以前より教師による声掛けなどで手洗い指導は行われていたが、必要なタイミング全てでは手洗いをしていない、指導から時間が経つと手洗いが雑になったり回数が減ったりして定着が難しいという問題がありました。

そこでこのクラスでは、①保健の授業で手指の汚れを実感する、②ゲーム的な要素を取り入れて手洗いへの意欲を高める、③正しい手洗いの方法を掲示する、の3つの活動を組み合わせ、児童が主体的に手洗いをし、習慣化することを目指しました。①は「手洗いチェッカー<sup>2</sup>」を用いて、普段の手洗い後の手と正しい手洗い後の手を見てみるという実験形式の授業を実施しました。②では3つの手を洗うタイミングを指定し、手洗いの手順書を見ながら石鹸を使用して30秒以上手洗いができた場合にシールを獲得できるチャレンジシートを配布しました。③では校内の手洗い場の付近に、正しい手洗いの手順のポスターを掲示しました。一連の取り組みを経て2か月後の調査では、特に食事前に手洗いをする児童が増え、クラス内で手洗いへの意識が高まったという結果になりました。



手洗いチェックを行う児童



岩田さんが所属するアフリカ医療研究会の手洗いワークショップで、歌を歌いながら手を洗うザンビアの児童

「手指衛生の実践は、10歳までに培った経験に大きく依存し、その後の行いを規定する」と言われています<sup>3</sup>。学童期の手洗いの習慣化は、生涯にわたって手洗いが定着することにつながるため、特に基礎教育現場でのアプローチは重要です。ご紹介した取り組みでは、①で手洗いの必要性を実感してもらい、②で手洗いへのモチベーションを上げ、以上2つの動機づけにより子どもたちが「自ら、自然と」手洗いを続けていくことを目指しています。周りに教師がいなくても、自分で習慣として継続していくことが、手洗い教育のゴールであるという教訓を得ることができました。

手洗い行動の習慣化に必要なのは、「手洗いは当たり前のことではない」と考えている相手の立場に立ち、「どうすれば手洗いを毎日

やりたいと思えるか」「自分が子どものときはどのように手洗いをするようになっていったらうか」と想像力を働かせることだと考えます。筆者自身も、学生団体でザンビアの児童に手洗い教育を行う活動を行っています。手洗い教材を作って教えることそのものよりも、授業を行って1か月経っても手洗いを継続してもらうことが難しいと感じます。活動では手洗いの習慣を自然と身に付けられるように、手が汚れているとどのような病気になる恐れがあるのか紹介するビデオや、手洗いソングを作成する等、好奇心の強い児童の関心を惹き印象に残るような工夫をしています。世界の人々の手洗いの習慣化につながるためのヒントになるように、日本の小学校や家庭、病院など各地で行われている1つ1つの取り組みを、1人でも多くの人に知ってもらえればと思います。



インタビュー中の岩田さん

[参考文献]

- 1 河上岳人. 手洗いの習慣化を目指し、内発的動機付けと外発的動機付けの両面からアプローチした保健指導：小学校第3学年 体育科保健領域「けんこうな生活」の実践より. 教育実践研究 31, 133-138, 2021
- 2 花王提供の実習用教材の「手洗い指導 BOX」、「ブラックライト」、「手洗いチェッカーローション」を使用 [花王 | 新・衛生習慣化プログラム「みんなで手あらい」\(kao.com\)](#)
- 3 玉城英彦『手洗いの疫学とゼンメルワイスの闘い』人間と歴史社 2017年

(JICA インターン 岩田純奈)

本ニュースレターに掲載・共有したい記事・写真・情報等を随時募集しています！

①配信/配信停止の希望、②記事掲載の希望、③本メールマガジンの表示不具合などのほか、ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記の編集・配信担当支援スタッフまでご連絡ください。

地球環境部 JICA 健康と命のための手洗い運動事務局

Web サイト <https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>

Handwashg@jica.go.jp

